

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：34315
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2016～2019
課題番号：16K02348
研究課題名(和文) イメージの物質性に関する理論的言説の調査研究

研究課題名(英文) Research on theorizations about materiality

研究代表者

北野 圭介 (Kitano, Keisuke)

立命館大学・映像学部・教授

研究者番号：60303096

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果としては、次のような諸点から、理論的動向の整理をした。
まず、物質的な側面での映像に関わる言説や新しい思想動向における(新しい唯物論や思弁的实在論、またメディア考古学やメディア人類学などの)理論的言説においても、映像をもちいた作品実践においても、物質的な側面への注視を折り込んだものが世界各国で多くみとめられた。また、その組み立てについて歴史的経緯のなかで一定程度整理することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一見抽象的な理論化言説の動向に関わる研究であるものの、並走する、同時に芸術作品における実践的思考の調査もおこないえたがゆえに、理論化言説の整理のみならず、難解とされたり同時代芸術作品に関するマッピングについても一定程度作成することができた。

結果、国内外の代表的な研究者とその動向を整理する共同討議を著作物としてまとめ『マテリアル・セオリーズ』(人文書院、2018年)として刊行し、高い評価も受けた。さらに、日本における映像の歴史を物質性をめぐる観点から整理した論文を、フランスはポンピドーメッセで開催された現代日本芸術展「JAPANORAMA」展の図録(2017年)に発表することもできた。

研究成果の概要(英文)：What has been done in this research project is a mapping of theorizations on the question of image and materiality.

Firstly, not only many theorizations in image studies and media studies, but also discourses in new tides in philosophy and others (New Materialism, Speculative realism and so on), and furthermore practices in art works employing visual images have been showing strong theoretical concerns with materiality in visual images, in Europe, North America, and Asia. And this project examines, to a certain extent, a sort of genealogical analysis on those theorizations.

研究分野：映像理論、メディア理論

キーワード：映像 メディア 芸術 現代哲学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

デジタル技術を用いた新しいタイプの映像が出現して以来、それ以前のいわゆるアナログ映像の類似と差異についての考察が世界的にすすんでいたが、申請者はその諸成果について整理をおこない著作『映像論序説』(人文書院、2009年)を刊行し、日本においてこの問題系に関する先駆的な仕事として一定程度の評価を受けていた。けれども、その著作において、映像と身体の関係性を主として情動概念を中心に新しい理論化が模索されてきていることをとりあげていたものの、それについて踏み込んだ考察はなされず、不十分なままであった。

これを前提として、本研究プロジェクトは、同時代の哲学(新しい唯物論や思弁的实在論など)や美学(メディア考古学やメディア人類学など)での新しい思想動向も視野に収め、映像をめぐる問題圏のなかで物質性という概念を導入し、新しい理論的フレームを探ることができるのではないかという背景があった。

2. 研究の目的

前世紀末より爆発的な勢いですすむデジタル技術の発展は映像表現の多彩な出現を促しているが、3Dプリンタなどの登場にともない、映像研究は欧米において2010年頃より全く新しいステージに入っている。すなわち「新しい唯物論」と呼ばれる文理融合型の理論化を軸にしたメディア研究の一環として、視覚現象に関わる物質的基盤や、周辺環境との相互作用などに注目した研究活動が一気に開花することになっている。これを受け、イメージの物質性をめぐる欧米の映像研究に関する言説についての調査研究をおこなうことが本プロジェクトの主たる目的となる。なお、本プロジェクトは、一定程度の成果をあげたとされる平成24-26年度科学研究費基盤(C)を踏まえ、それを発展的に継承するかたちで構想され設計されたものである。

3. 研究の方法

概ね、以下のような方法で、本研究プロジェクトはすすめられた。

まず、現代メディア研究(イメージ人類学/メディア考古学/ニュー・メディア研究)などの理論的言説について文献資料を調査、収集、整理する。これについては、とりわけハンス・ベルティンクの「イメージ人類学」を中心にして、また、カールスルーエメディア芸術センターの活動の調査をおこない、考察をおこなった。

また、哲学や思想などの新しい動向(新しい唯物論や思弁的实在論を含む)に関する文献資料調査、収集、整理をおこなう。これについては、とりわけ、メディア研究と接続する文献資料、具体的には、映画研究やメディア研究など具体的な領域での仕事もおこなっている研究者による文献を中心に調査をおこなった。

これらに加えて、映像を用いた芸術作品における実践的動向を探る調査をおこない、映像・作品資料の同定調査をおこなう。欧州(フランス、イタリア、ドイツ、またイギリスを含む)、北米(アメリカ合衆国)、アジア(シンガポール、台湾、タイ、香港など)の美術館、アートセンターでおこなった。

また、理論的考察の組み立ての観点からは、欧州、北米、アジアにおいて、理論的言説や実践的思考において差異が認められるか、差異があるとすればそれはいかなるようなものかを精査し、映像とその物質性をめぐる観点から整理することを目指すこととした。

加えて、映像に関する理論化作業、とりわけ映像の物質性に関する理論化作業については、デジタル技術への着目が多いことから、情報理論、特に情報をめぐる哲学的考察の動向についても調査をおこなった。

また、欧米ではアニメーション研究が映像の物質性に関しては注目する成果を挙げているので、それを視野に収めつつ、アニメーション文化について大きな潮流を生み隆盛を誇っている日本のアニメ文化の特徴をその観点から整理する考察もおこなった。

さらに、そうしたアニメーションを含め近代日本における映像の歴史を物質性の観点から概括する研究もおこなった。

4. 研究成果

研究成果としては、次のような諸点から、理論的動向の整理をおこなうことが確認された。

第一に、物質的な側面での映像に関わる理論的関心の勃興は、欧州、北米、アジア諸国をはじめ世界各国において認められた。

第二に、同じく欧州、北米、アジア諸国において、映像をもちいた作品実践においても、物質的な側面への注視を折り込んだものが同時代的に数多く認められた。

第三に、第一、第二の観点を前提とした上で、欧州、北米、アジア諸国間で理論化の作業に少なからずの方向づけの差異が認められた。

第四に、新しい唯物論や思弁的实在論においてや、またメディア考古学やメディア人類学においては、物質性の観点がきわめて重要な視角として導入され、理論的精緻化に寄与していることが認められた。

第五に、デジタル技術そのものの理論化言説、とりわけ、情報に関わる基礎論的考察の先鋭的な動向においても物質性への注目が認められた。

第一、第二、第三、第四については、各分野の国内外の代表的な研究者とその動向を整理する

共同討議をおこなった成果を著作物としてまとめ『マテリアル・セオリーズ』(人文書院、2018年)として刊行した。

また、ハーバード大学での国際コンファレンス「Media Theory in Japan」での発表をもとに編集され刊行された *Media Theory in Japan* (Duke University Press, 2017年) に寄稿した。加えて、日本アニメーション学会第18回大会において基調講演として「アニメーションと映像をめぐる問い~アニメ、アニメーション、アニメイティング」をおこなった(2016年6月11日)。

第五については、二つの論文を雑誌「思想」(岩波書店、2018年)に発表した。「身体、情報、世界」(2018年)と「データ、情報、人間」(2019年)である。

加えて、日本における映像の歴史について物質性をめぐる観点から整理した論文を、フランスはポンピドームで開催された現代日本芸術展「JAPANORAMA」展の図録(2017年)に寄稿した。

さらに、デジタル技術がもたらし、思考様式の変容についての欧米での代表的な著作を邦訳し刊行した(『プロトコル』、人文書院、2017年)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|-----------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 北野圭介 | 4. 巻 1130 |
| 2. 論文標題 データ、情報、人間 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 思想 | 6. 最初と最後の頁 23-40 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 北野圭介 | 4. 巻 第九号 |
| 2. 論文標題 ポストモダン以降、メディア技術の可能性を考える | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 情報科学芸術大学院紀要 | 6. 最初と最後の頁 145-148 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 飯田麻結、依田富子、北野圭介 | 4. 巻 第45巻22号 |
| 2. 論文標題 共同討議「誰が人新世を語っているのかー人新世・人文学・フェミニズム」 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 現代思想 | 6. 最初と最後の頁 110-121 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 北野圭介 | 4. 巻 第18号 |
| 2. 論文標題 「アニメーションと映像をめぐる問い ~アニメ、アニメーション、アニメイティング」 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 日本アニメーション研究 | 6. 最初と最後の頁 5-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

| |
|-----------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 北野圭介 |
| 2. 発表標題 「アニメーションと映像をめぐる問い ～アニメ、アニメーション、アニメイティング」 |
| 3. 学会等名 日本アニメーション学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 北野 圭介 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 人文書院 | 5. 総ページ数 303 |
| 3. 書名 マテリアル・セオリーズ 新たなる唯物論に向けて | |

| | |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 Yuko Hasegawa, Yasuo Kobayashi, Yoshitaka Mori, Keisuke Kitano etc | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 Centre Pompidou-Metz | 5. 総ページ数 248 |
| 3. 書名 Japanorama Nouveau regard sur la creation contemporaine | |

| | |
|------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 Keisuke Kitano, Marc Steinberg, Alexander Zahlten and others | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 Duke University Press | 5. 総ページ数 423 |
| 3. 書名 Media Theory in Japan | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|